

## 「JAバンク茨城子ども食堂応援助成2023」活動報告書

活動名	シンママ集まれ！フードパントリー付大相談会
団体名	ママのホップ・ステップ・ジャンププロジェクト
この活動で取り組んだ地域の課題や背景（※）	<p>すでに周知のとおり、シングルマザーは良い労働条件の仕事に就きにくい。シングルマザー自体も離婚で自信を失っており、育児で忙しいことから積極的な気持ちになるのが難しい。シングルマザーを安い賃金で稼働させることにより利益を得ている中小企業も多いという現実もある。</p> <p>養育費も貰えていないし、公的支援も情報や条件などによって受けられない人もいる。これらも重要な家計を安定させるものでもあるので、支援する必要があるため相談を受け付けることは重要である。シングルマザー自身も互いに支え合い、自信を取り戻せるよう伴走者を得て、学歴や資格や技術を得ることによって安定した良い仕事に就けるよう、アドバイスしたり、経済上の支援をする仕組みが絶対に必要である。シングルマザー世帯は、子どもと若い母親の世帯であり、将来の労働層、購買層である。大変可能性にあふれた世帯ともいえる。この世帯が絶望しているようでは、明るい社会はありえない。</p>
この活動の目的（※）	<p>シングルマザーの相談にのるワンストップサービスを作り、養育費をしっかりと受取れるよう支援し労働条件の良い就業につなげる。相談に慣れていない対象者のために、相談しやすくするためフードパントリーや子どもも楽しめるイベントを同時に開催して貧困支援も行いながら信頼関係を構築し長期的な支援につなげる。</p>
活動の対象（※）	<p>シングルマザー世帯および離婚前の別居状態にある妻世帯。</p>
実施内容	<p>主に土浦市を中心に、フードパントリーを行いながら多方面からの相談を受けた。R6.3.23の第1回目のイベント「シンママ集まれ！大相談会」は参加申し込み36名、相談申し込み6名であった。当日は、子どもを連れて来た参加者が多く、子ども用当てクジやバルーンアートで会場は大変盛り上がった。相談も、それぞれ1時間の時間枠で行ったが、1時間30分を超えて悩みを相談する参加者もあり、相談後は全員から「相談して良かった」「大変癒された」「よく理解できた」と高い評価をいただいた。法律相談のうち1件は、法律事務所で相談を行い解決した。R6.8.10の2回目のイベントはお盆休みの時期の開催だったが、参加者26名、相談者12名であった。弁護士と保健師、相談員とFP、通信制高校職員と弁護士など、複数の資格者がコンビを組んで相談にあたったものがいくつかあった。アンケートの結果では、フードパントリーで欲しい食料品は圧倒的に米が多かったので、R6.12.08のイベントでは米5キロを配布したいと考えた。土浦市社会福祉協議会と共催で企画し、米5キロなどの食料品は社協に担当してもらい、ママホップは、お餅や年越しそば、クリスマスのお菓子を担当した。当初の定員50名にすぐに達してしまっただけで、65名に増加させて増加の分はママホップが負担することにしたので、食料品代が予定よりも多くかかってしまった。しかし、米をはじめとする食料品の高騰がシングルマザーの家計を圧迫しているのは明らかなので、おだやかな気持ちで新年を迎えてほしいと思い、社協と協力し合って開催した。相談申込</p>

※ 申請書から転記いただいて構いません。

## 「JAバンク茨城子ども食堂応援助成」活動報告書

	<p>者は18名で定員(20名)に近かった。土浦わかものまちプロジェクトという高校生がメンバーのプロジェクトと協力関係もできたので活動の連携ができてきた。</p>
<p><b>活動実施後の成果</b></p>	<p>対象者であるシングルマザーが最初は「相談が苦手」「何を相談したら良いかわからない」という人が多く、相談が少なかったが、次第に相談が増加した。フードパントリーや子どものワークショップ(簡単な工作)も気軽に参加してもらえるようになってきた。対象者との信頼関係ができてきたのが成果である。法律相談のうちの1件は、弁護士が受任して解決した。</p> <p>社協や他のプロジェクトやNPOとの連携ができてきた。土浦市や土浦商工会議所の後援もいただいた。一般の方からお米や野菜、商品券を含む寄付がいただいた。キャリアコンサルタントのメンバーと弁護士のメンバーが協力してサポートし、たった一人ではあるが、野菜洗いのパート(年収110万円)のシングルマザーを完全リモートワーク(年収330万円)に転職してもらうことができた。これをどのようにモデル化するかが今後の課題である。</p> <p>対象者が教育費に非常に高い関心があることがわかった。このことから、パルシステム共済連から、教育費サポートブック(しんぐるまざあず・ふぉーらむ発行)を50冊寄贈いただくことになった。このテキストを使用して、R7.5月か6月に「ママカフェ勉強会」(お茶やお菓子を食べたりしながらFPの講義を聞く)を開催しようと計画中である。対象者のニーズの把握ができてきたことが大きい。</p>
<p><b>今後の展望や新たに 見えてきた 地域課題</b></p>	<p>フードパントリーについては、政府備蓄米を利用するなど米を少しでも配布するようにしてプラスアルファの食品を配布しつつ、食育も行えるような工夫が必要である。</p> <p>相談の名前を「進学相談」、「教育費・奨学金相談」などと対象者の意識しているワードを付したネーミングに変えることで対象者が申し込みやすくする工夫をする。</p> <p>パソコンの仕事に興味はあっても、パソコンがなく初期費用が負担できない方が多いので、これからパソコンを貸し出して初級講座を行うような計画が必要。</p> <p>教育費に関する講座を行い、将来的に大きな負担となる教育費にシングルマザーが備えることができるようにサポートする必要がある。</p>
<p><b>寄付者への一言(※)</b></p>	<p>おかげさまで、大変充実した支援を行うことができました。ありがとうございました。食料品は、相談への心理的ハードルを下げてくれました。ママホップ単独では多くの食料支援を行うことはできないと思いますが、他の団体と協力するなどして、対象者のニーズに合った支援を継続させていきたいと思っています。これからもよろしくお願い申し上げます。</p>
<p><b>自己評価</b></p>	<p>A 目標を超える成果を得ることができた</p>

※ 欄の大きさは自由に変えていただいて結構ですが、全体で2ページ以内となるようご配慮ください。

※ 活動の様子がわかる写真数枚のデータを別途ご送付ください。

※ その他必要に応じて補足書類をご提出ください。